

泉州看護専門学校

○2019年度「自己点検・自己評価」および学校関係者評価

- ・4段階評価(4:優れている 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:改善が必要)
- ・評価(平均) 小数点第3位切り捨て

カテゴリー	平均点	現状と課題・解決方法	学校関係者委員よりのご意見
教育理念・教育目的・教育目標	3.25	<p>理念・目的・育成人材像は本校の絶対的教育方針に繋がるものであり、入学案内・ホームページ、学生便覧に分かりやすい表現で載せている。入学後のガイダンスでも説明を加えながら伝えている。</p> <p>本校の『めざす看護師像』も学生便覧の中に記しており、その内容は、看護の専門職者として求められる専門知識・技術・技能を身につける前提として、感性豊かで人権思想に裏付けられた科学的な人間観・健康観と集団の中での人材育成や仲間意識を重視している。さらに、設置主体である法人の医療観（綱領）に基づき、対象を生活と労働の場で歴史的に捉えることを核としている。</p> <p>科学的な物の見方・考え方を育て、生命に対する尊敬を深めるために、「哲学」「生物学」「物理学」とさらに「憲法学」を科目立てしている。</p> <p>成人看護概論では、「生活と労働の場から学ぶ見学実習」として、病院・診療所にかかりながら働いている労働の場に行き、1日学ぶという見学実習を行っている。</p> <p>また、全学合宿・学院祭・創作曲発表会といった行事を学生主体で実行委員会形式で行うことにより、自主性・民主性・集団性を高める取り組みとなっている。</p> <p>それぞれの科目では、様々な視点、見方・考え方を学ぶ事が出来ており、学生の振り返りや感想等からも視野の広がり、人としての成長を実感することが多い。しかし、「その場」の学びはできても、それらの学びから個々の「人としての核」となるもの見方や考え方がなかなか育っていないように感じる。</p> <p>3年間で経験する講義や実習、行事などでの学びが個々の成長、自主性・民主性・集団性をさらに高められる取り組みとなるよう、行事についてあらかじめ振り返り、教員の関わり方なども検討が必要と考える。</p> <p>看護基礎教育は、卒業時に専門職業人としての知識・技能においては基礎的なレベルを正確に理解し、実践できることが重要である。もっとも重視されるべきは、学習者自身の人間的成長発達を集団の中で図ることにあると考える。学習者自身の主体的な学ぶ意欲、科学的な探究心、対象に対する謙虚で誠実な人格の育成が重要であるが、集団性や主体性、謙虚さや誠実性については、3年間を通した基礎教育でもまだまだ課題が多い。特に近年社会人入学の学生が減少し、2019年度の現役生数は123人中105人と85%を占めており、集団で話し合ったり、物事をすすめていく等の経験が少ない学生が多いと考えられる。これまでの行事やクラス運営といった集団を重要視しながら、さらに個々の成長に向けた取り組みが必要と考える。</p>	<p>○教育理念・教育目的・教育目標は設置主体の医療官・看護間にもとづき、どのような看護師を育成するのか吟味した文言でわかりやすく、また、具体的な5つの特色で示すことができているのではないかと。</p> <p>○入学前、入学時のオリエンテーション、家族懇談会などを継続して実施されており、教育理念・教育目的・教育目標の周知、学生便覧の工夫がされていると思われる。</p> <p>○「自己点検・自己評価」の中で、最初の教育理念等の項目についてだが、「生命に対する尊敬を深めるため」とあるが、ここは「生命の尊敬に対する理解を深めるため」とした方が良いのではないかと。</p> <p>○学校の自己評価としては、「その場」の学びはできているが、「人としての核」がまだ十分に育っていないとの事だが、外部から卒業時の学生を見ると「人としての核」が育つための土壌をもって、看護の現場に踏み出すところまで確かに育っていると評価できる。もし弱点があるとすると、各行事やイベントのとりくみが、学生の自主性を育むということに対して方法論が先行していて、職員間でのその本来の目的目標の理解と、年々変化する学生への対応について、もう一步踏み込んだ議論の必要が示唆されているのではないかと。</p>
教育課程経営	3.17	<p>当校は、民医連の綱領、法人の医療・看護の理念がもとなり、「無差別平等の医療」「患者の立場に立つ看護」が教育実践の軸になっている。</p> <p>教育理念・教育目的・教育目標に沿って教育課程編成が行われているが、社会状況や社会のニーズは年々変化している。そのため、毎年、前期総括・後期総括を行い、その都度改善に努め、年度末総括では、来年度のカリキュラム内容に向けて検討をしている。その中で、外部講師の変更や講師団会議による意見、学生による授業評価などを参考にカリキュラム内容の変更も行っている。</p> <p>講師団会議では、学生の主体性を引き出すための講義での工夫をしていくことの重要性について話し合いが行われた。会議での意見も参考にしながら、教育課程開発を行っていくことが求められる。</p> <p>2022年の第5次カリキュラム改正に向けて、カリキュラム評価をすることが課題である。</p> <p>そして、教員の外部への研修や学内勉強会、討議を重ねて改めて、教育理念から見直す機会となっている。</p> <p>臨地実習では、臨地実習指導者に本校のカリキュラムをご理解頂き指導にあたって頂いている。</p> <p>また、自校において臨床指導者講習会を行い、学生の現状、指導者の役割等、理解して頂き、指導案作りも行うことで指導に活かしてもらっている。</p> <p>年2回開催している拡大臨床実習指導者会議では、病院関係者と教員とで意見交流を行いながら教育実践に活かしている。今後は、外部講師や実習についての授業評価の実施に向けて進めていきたい。</p>	<p>○教職員会議、総括会議が定期的に開催され、教育内容の評価を継続的に行っていることは大切なことと思われる。</p> <p>○教育内容をより細やかな検討・評価を行って、組織の特徴とこれまでの教育課程の歴史がカリキュラム開発に活かされ、第5次カリキュラム改正でさらに発展してほしいと思う。</p> <p>○毎年3月に開催されている講師団会議は1年の教育を顧みて、講師団と教員間で率直に意見交換する場が保障されていることは大変重要と思う。教育理念や目的と、外部講師自身が持つ教育観や学生をみる視点の共有ができて、また授業の方法論についても講師間の交流の場ともなっている。少し残念に思っているのは講師の参加が少ない事。</p> <p>○講師団会議への参加ができない場合も個々の講師と専任教員との間で意見交換も行われていることで全体としては、理念の一貫性が保障されているのではないかと。</p>
教授・学習・評価課程	3.40	<p>学生への教育活動について、入学前にオリエンテーションを行っている。入学前オリエンテーションでは、学則を含めた学校生活について、学生本人だけでなく保護者にも伝え学業支援をお願いしている。その後は、各学年の家族懇談および個人懇談を行い、必要時は家族と連携し学生への支援体制をとっている。今後も保護者から信頼されるような学校作りが必要である。</p> <p>成績については、毎年4月に前年度の単位取得状況である成績表を学生および保護者に渡している。また、年度初めにクラス懇談や個人懇談を実施し、学習状況を共有している。さらに、国家試験に向けての対策や現状なども情報共有し保護者と学校で共に学生を支える基盤づくりに努めている。しかし、出席日数不足で試験受講資格を無くした学生も少なくなく、その都度本人・及び保護者面談を行っているが、日々の教員の指導や関わりについて考えていきたい。</p> <p>社会人基礎力において年々低下してきていると感じている。学生が看護師になるうえで、必要とされる社会人基礎力についてどのような教育方法が良いのか教育方法の開発も必要である。</p> <p>看護師国家試験対策は、1回生からと考えてはいるが、3回生になってから本格的な指導となっている。実際には3回生は春から実習に集中する中、全ての実習が終わる11月からが本番となりがちである。1回生時から、主体的に学習に取り組めるような働きかけについて検討が必要である。</p> <p>学生の状況把握については、面談を大切に、学生の話をよく傾聴することで状況把握に努め、教員全体で学生を支援できるよう努力していくことが必要である。</p>	<p>○入学オリエンテーションの充実を図り、学年毎の家族懇談会の開催など学生支援体制を整えることは、学生に安心して学べる環境を保障することに繋がる。</p> <p>○学生が抱える困難を保護者とも学年ごとに開催される家族懇談会等も含め共有するよう努められていると思う。</p> <p>○保護者との信頼関係を築く事が国家試験の合格率にも反映しているのではないかと。</p> <p>○個別面談も重視されているなど学生の思いを尊重した支援の在り方は評価でき成人教育としての関わり方に期待する。</p>
経営・管理課程	3.50	<p>本校の管理運営にあたっては、組織図のもと、管理委員会、学校運営委員会を設置し、それぞれの任務および審議決定事項も規定されている。</p> <p>管理委員会は1か月に2回、学校運営委員会は2か月に1回開催している。2018年度、新校舎移転に際して、改めて組織図と学校管理について整備を行った。それまでは学校運営委員会が3か月間隔があくことがあったが、現在は2か月に一度、確実に開催され、学校運営の状況をタイムリーに報告・共有できるようになった。</p> <p>各学年会議には担任、副担任に教務主任または副教務主任が入り、指導・相談にあっている。</p> <p>また、臨地実習担当として実習調整者を配置し、実習にかかる全般を担っている。</p> <p>入学前オリエンテーションおよび入学後のガイダンスで奨学金制度について説明を行い、日本学生支援機構の申し込みは事務手続きの相談・援助も行っている。関連病院の奨学金希望者の相談を受けることもある。経済的に困難な学生への支援体制はあるが、授業料の遅延で面接する学生も少なからずいる状況である。</p> <p>学生相談については、担任等に関わらず誰にでも相談していいことを告知している。また本校カウンセラーと入学後全員面談を行い、カウンセリング相談の敷居を低くし、相談しやすい体制をとっている。2019年度は定期的にカウンセリングを受けた学生はいなかった。年々カウンセリングの希望者が少なくなっている。しかし実際には様々な問題や悩みを抱えた学生が少なくなく、カウンセラーの提案でポスターを掲示したり、少しずつ啓蒙活動を行っている。</p> <p>2018年10月に新築移転となり、必要な施設・設備・用具について新しい物品を揃え、学生が学習しやすく整備された環境となった。</p>	<p>○組織体制を整え、設置主体との定期的な会議が開催され継続できていることは評価できる。</p> <p>学校管理体制を明確にし、組織として教員をフォローできていることは、学生に責任をもった支援体制を構築できていることと評価できる。</p> <p>○学校の新築移転を機に、学生の学ぶ環境を魅力的に整えてきている。さらに教育効果を高めるための機材を計画的に整える検討をすべしと思う。</p> <p>○教員相互の情報の共有がうまく進められていると感じる。推測ではあるが、全教員が全学生を「個」として認識していると思う。学生と教員間のコミュニケーションも比較的良くとれているように感じる。担任・副担任からは講義のたびごとに学生・クラスの状況についての報告を受け、講義を進めるための参考にしている。それにより学生の現状に配慮しての講義ができるように思う。新校舎は旧校舎に比べ教室の面積も広く、ゆったりした明るい環境で講義を進めることができている。プレゼンテーションの機器も充実している。</p>

入学	3.30	<p>毎年、高等学校の進路相談会には積極的に参加し、進路指導教員にも情報提供を行っている。</p> <p>また、近隣校訪問や大阪府下の全高校に学校案内パンフレットおよび募集要項の郵送を行っている。2019年度は在校生の卒業校をメインに高校訪問(22校)に取り組んだ。当校の校風を理解し、受験を勧めてくれる先生方がいることも知った。今後も、高校訪問を実施していくことで受験者の獲得につながると考える。</p> <p>高校訪問に加え、業者主催の進路相談会や大阪府看護協会および看護学校協議会主催の進路相談会には積極的に参加し(13会場)、オープンスクールの案内も行うことで学校見学につながっている。例年夏季にオープンキャンパスを3回実施(201名の参加)。参加者が受験につながっている。</p> <p>入学選考の可否は入学選考基準により適正に審査されている。また、受験者数の減少はあったものの、入学辞退者は数名見られたが、定員割れはしていない。</p>	<p>○18歳人口の減少、看護大学への進学率の増加、泉州、泉南地域での看護養成定員の増加が図られる中、教職員、設置主体、関連施設との連携と努力によって定員を満たしていることは評価できる。</p> <p>○学校のホームページやSNSなど、動画での紹介なども含め工夫が必要ではないか。</p>
卒業・就職・進学	3.50	<p>設置主体法人をはじめ関連施設との奨学生制度があり、7割を超える学生が関連施設に就職している。また、関連施設外も含め就職率は100%である。</p> <p>2019年度の看護師国家試験合格率は97.2%であった。今後も学生の主体性を育みながら、教員一同、学生をサポートしていく。</p>	<p>○国家試験合格率は19年度も100%とならなかったことは残念だが、合格率の全国平均は上回っており、就職率は100%となっている。引き続き国試合格率100%を実現するため努めてほしい。</p>
地域社会/国際交流	3.00	<p>2019年度は南海トラフ巨大地震を想定した国土交通省の大規模津波防災総合訓練に参加した。学生一人ひとり役割を持ち、DMATや医療従事者等とともに訓練に参加し、住民の避難訓練をはじめ、多職種との連携、安全を守る心がまえを学ぶことが出来た。</p> <p>校舎移転後、新しい地域の自治会に加入し、地域の方との交流も見られる。11月の学院祭では、学校周辺地域に学院祭のお知らせビラを配布し、100名を超える学校外参加者に来ていただき、健康チェックや模擬、バザー等を楽しんでいただいた。12月末には地域自治会主催の餅つきに参加し、若者の参加により住民の方々にも喜んでいただいた。</p> <p>災害時の対策としては、毎年防災訓練において避難訓練を行っている。2019年度は消防署職員と学生・教職員合同の避難訓練を予定していたが、当日、消防署職員の緊急出動により学生と教職員の避難訓練となった。</p>	<p>○堺市は、韓国、中国、ベトナムからの労働者が多く生活をしている地域であり、外国人労働者の実態など知る機会を設けるなど更に視野を広げ、その人たちの労働、医療状況など学ぶ必要性もあるのではないかと。</p> <p>○一昨年の新校舎の竣工式には、地域の自治会から複数の参加から祝辞をもらったり、日常的な交流が行われたりして、地域の自治会とは良好な関係が保たれている。今後ますます地域の人たちとの交流を深め、地域の人たちの健康意識を高めるための貢献を期待したい。</p>
研究	3.50	<p>年間通して、学会等の参加計画を立てている。2019年度も全教員が専門分野の研修会や様々な学会に参加することが出来た。また、9名の教員が研究発表を行った。</p> <p>2020年度には教務主任が日本看護学校協議会の教務主任養成講習会への参加を予定している。</p>	<p>○研究を通して教員の自己研鑽がなされていること、また、幹部教員育成を計画的に行えるよう努力していることは評価できる。</p>